

(別記)

令和3年度高森町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

町内では、水田面積約350haの約5割強が主食用米、残りが転作作物として施設園芸や飼料作物及び不作付け地となっている。

農家の高齢化や、鳥獣害による不作付け地が今後も増加することが予想される。

今後は、集落単位での農地集積を進めながら不作付け地の減少を図っていく。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当地域では冷涼な気候を活かして高収益作物であるナス、花き等施設野菜が栽培されており、農業者毎に作付体系に適合した品目の導入を図っていく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

地域の350ha（不作付け地を含む）の水田について、地域適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、野菜を転作作物の中心に位置付け、作物生産の維持拡大を図ることとする。また、飼料作物については、作付けを担い手に集約すると共に、二毛作の作付及び耕畜連携（資源循環の取組）の取組を推進する。

施設園芸が行われているような今後も水稲作に活用される見込みがない水田について点検を行い、畑地化の取組の重点支援期間であることを周知し、地域の実情に応じて水田の畑作化を推進していく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

需要に応じた生産を推進するため、地域に提示された生産目安を利用した作付け推進、並びに平地と山間部での高低差300mといった条件下における品種の選定や新たな品種への取組に努め、農業経営の安定化を推進する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米 集荷施設の確立を図って行く。生産技術習得のため先進地視察研修を行う。

イ WCS用稲 専用品種での取組や先進地視察研修等を行っていく。

ウ 加工用米 他の戦略作物との比較をした上で推進を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

大豆については販売目的での作付けが無く、取り組む場合は新たな投資を余儀なくされるのが実情である。

麦・飼料作物については、産地交付金を活用して、二毛作の作付けや耕畜連携の推進を図ることで、作付面積を拡大していく。

(4) そば

そばについては、排水対策を徹底することにより、産地交付金を活用し生産拡大を図る事により農家経営の安定化や自給率の向上に繋げる。

(5) 高収益作物

産地交付金を活用し、野菜や花き類等の更なる生産拡大を図り農業経営の安定化や自給率向上に繋げ、今後の面積維持・拡大を図る。また、なす（ひごむらさき）を地域の重点品目に位置付け、作付を支援することで面積拡大を図って行く。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度 作付面積 (ha)	当年度の 作付予定面積 (ha)	令和4年度の 作付目標面積 (ha)	令和5年度の 作付目標面積 (ha)
主食用米	173ha、817 t	172ha、857 t	172ha、857 t	172ha、857 t
WCS用稲	23	23	23	23
麦	0	1.6	1.8	1.8
大豆	0.4	1.6	1.6	1.6
飼料作物	21	21	27	27
・子実用とうもろこし				
高収益作物				
・野菜（なす）	5.2	5.2	5.5	5.5
・花き・花木	3.2	3.2	4.0	4.0
畑地化	0	0	0	1

※ 主食用米の当年度、令和4年度、令和5年度の目標値において使用した単収は 498kg/10a

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度 (R2 実績)	目標値 (R5 年度)
1	なす (ひごむらさき)	重点品目の作付助成 (基幹)	作付面積 (ha)	0.6	1.0
2	麦、飼料作物	麦・飼料作物担い手 等加算 (基幹)	取組面積 (ha)	6.0	10.8
			反収 (kg/10a)	900	1,050
3	麦、飼料作物	麦・飼料作物二毛作 加算 (二毛作)	取組面積 (ha)	8.7	11.5
			水田利用率 (%)	76	100
4	飼料作物、 WCS用稲	耕畜連携の取組 (資源循環・水田放 牧) (基幹)	取組面積 (ha)	15.7	16.5
			実施率 (%)	67	70
5	露地野菜、 その他作物	地域振興作物への 助成 (基幹)	作付面積 (ha)	0.28	0.35
6	施設野菜 野菜、花き	ハウス施設作物への 助成 (基幹)	作付面積 (ha)	7.4	8